

天野芳太郎 あまのよしとろう 實業家、古代アンデス文明研究家。明治二十一年七月一日秋田縣南秋田郡勝木村生れ、昭和五十七年十月十四日没（八九一―一九八二）。大正五年秋田工業學校卒業後横濱に移りて各種事業に携はり、そのうち中南米に渡り、昭和四年パナマで天野商會を興し、他、コスタ・リカ、チリで漁業會社、農場を經營。十六年開戦と同時にパナマで抑留後アメリカに送られ、翌年第一回交換船で歸國。その記録を『我が囚はれの記』（再版・昭和十八年八月十五日汎洋社、改題復刊）『わが囚はれの記―第二次大戦と中南米移民』（五十八年十月十日中央公論社）『中公文庫』（ここの出版。戦後ペルーに渡航し華業を再興、傍ら古代アンデス文明を研究して、二十九年リマ市の天野博物館を開設、ペルー、ブラジル兩政府より敘勳。五十五年吉川英治賞、五十七年国際交流基金賞受賞。リマの自宅に死去。また寫眞、短歌も能くし、寫真集『EN LA AMERICA LATINA』（一九四〇刊）、歌集『沙漠』（昭和二十年刊）がある。

他に隨筆『中南米の積類』（昭和十五年十二月十日朝日新聞社）、『コアウカノ族の如く』（昭和十九年六月二十五日汎洋社）、『中南米遙かなる國々』（昭和二十一年九月二十八日日本ブツク・クラブ）等。尾塩尚著『天界航路―天野芳太郎とその時代』（昭和五十九年九月）二十七（筑摩書房）刊。

